

ドラム缶風呂

川の活動等で冷えた体をドラム缶風呂に入り、ワイルドな気分になりながら温めることができます。薪を割る、火を焚きお湯を沸かす、片付ける、など活動量が多いですが、その分達成感を味わいながらの入浴で満足感を得ることができるでしょう。

【時期】 6月下旬～9月中旬

【所要時間】 1～3時間（準備と片づけを含めた時間）

【対象】 幼児以上

【実施場所】 野外炊事場付近

【指導】 前半に職員の説明あり

【準備】 （個人）水遊びができる服装、タオル
（団体）薪（ドラム缶1本あたり1～2束が目安、購入）、着火剤（購入）、うちわ
（自然の家）専用ドラム缶（3本）、バケツ、ホース、火ばさみ等
※ドラム缶には、底に敷くスノコや蓋がセットされています。



【展開例】

1. ドラム缶に3分の1程度の水を入れる。
※ホースで水を引く。
2. 薪を割り、蓋をし、火をたく。写真のような形状のため、うちわなどであおいで、空気を送る。
※ホースやバケツなど燃えやすいものを遠ざける。
3. 気温によって差はあるが、約40分で45度程度のお湯になる。
※湯加減をみながら水を加え、適度な温度に調整する。
4. 安全のため、火が強く残っている場合、水をかけるなどして火を弱める。
5. お湯から上がったら、濡れた服の影響で、体温が下がることもあるため、順次、乾いた服に着替える。
6. ドラム缶のコックを開け、お湯を捨て蓋を固定する。
7. 最後に火が完全に消えたことを確認し、残灰を指定した場所に廃棄する。



【指導上の留意点】

1. 指導者は火をたいている間、周囲の安全に目を配る。
2. 髪や体の洗浄を目的とした活動ではないので、別途館内の浴室で入浴する。
3. 薪の量や、着火剤の量はあくまで目安なので、経験の無い方は多めに準備する。
4. 入浴中のドラム缶の転倒による事故を防ぐ。
5. 特に川活動と組み合わせる場合、体温低下を防ぐため、濡れた服のままの時間を短くするように計画する。